

1 単元名 「脇田川の魅力発信隊」

2 単元の目標

- ・脇田川環境について理解し、学校の人たちに伝わりやすいように発表資料やポスターにまとめることができる。(知識・技能)
- ・実際の川の写真や自分の経験や見て聞いたことから課題を見だし、脇田川の生態系や活用法を考えたり、考えたことや学んだことを発表資料やポスターを通して他の人に分かりやすく伝えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・脇田川を綺麗に保ちたいという目的意識を持ち、意欲的に脇田川について調べたり、話を聞いたり観察していくことを通して地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、第3学年の総合的な学習の時間で学校の周りについて調べる中で出てきた、児童らにとって身近な「脇田川」に焦点を当てた教材である。また、実際に環境のことを考えた活動を通して自分たちにも地域のためにできることや発信する大切さに気付くことをねらいとしている。

脇田川に行き、どんな生き物や植物がいるのか学ぶことで脇田川の水質や生物、第3学年次に学習した内容と結び付けていくことで脇田川への理解や課題への意欲を高めていく中で自分たちの住んでいる町に興味・関心を持ち、愛着を持つことができると考える。また、脇田川の生態系について学んだり感じたりしたことをまとめて考えを共有したり発表したりする活動を通して、まとめるスキルやコミュニケーションスキルの向上も図ることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3学年において、地域の昔と今を発信する活動してきている。脇田川について校区内探検の一環として赴き、昆虫を採集する活動を行っている。都市部のため海がすぐ近くでない環境ではあるが、川という自然環境が自分たちのすぐ近くにあることは理解している。

また、理科の学習では、植物の発芽と成長や流れる水のはたらきについても学習する。脇田川に生息する植物がどのようにして育っているのかや、脇田川のはたらきなどについて考える際に理科の学習を生かすことができることから、本課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本校の総合的な学習の時間では、令和6年度より「Think Globally, Act Locally」の考えのもと、第3学年では広木校区の発展（昔と今、そして未来）について、第4学年では地域の「人」、第5学年では地域の「自然」、第6学年では鹿児島という「郷土」について学習を進め、最後は世界へつながる活動に取り組んでいる。

本単元の指導にあたっては、まず「脇田川の魅力とは」の発問から、それ時点で児童一人一人が考える脇田川の魅力を考える。第3学年次に脇田川について調べたことにふれ、脇田川について改めて知るために脇田川へ行き、そこにいる生き物や植物を観察する。事前に水の透明度やどんな生物や植物がいるのかを予想させ、調査への見通しをもたせたい。

活動を通して脇田川のような多様な生態系が存在する環境が身近にあることの素晴らしさや環境を保全していくことの大切さに気づかせたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性…現在の海の環境は将来の海と繋がっており、自分や家族が年老いた時に、環境が改善されないままになっている可能性があるということ。

公平性…自分たちの世代の人々だけが快適に過ごせるだけでなく、未来の人々のことを考えることが大切だということ。

責任性…地域の人々や学校の仲間たちとともに活動を続けていくことが大切であるということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

システムズ・シンキング

・脇田川の生態系や水の大切さについて意見交流を通して自分の考えを持つ。

長期的思考力

・今の海の環境だけでなく、これからの海の環境について考える力を養

う。協働的問題解決力

・クラスの友達と協力し、それぞれの観察結果や考えたことを比較し、意見を交流することで解決していく。

・本学習で変容を促すESDの価値観

○世代間の公正

自分たちだけでなく将来の人たちも安心して過ごせるまちづくりが大切。

○自然環境・生態系の保全を重視する

自分たちだけが快適な地域ではなく、環境と共に生活していくことができるように努める必要がある。

・達成が期待されるSDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①脇田川の環境や現状について理解している。 ②聞いたり、調べたり観察したりして分かったことを言葉や表を用いてまとめる技能を身に付けている。	①身近な海から課題を発見し、これからの海を守るための方策を考えている。 ②調査し自分の言葉でまとめ、表現している。	①実際に生育することを通して、自分にできることを模索しようとしている。 ②脇田川の魅力について学んだことを学校の人たちに知ってもらうために発信しようとしている。

5. 単元の指導計画（全 20 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価 備考
1	<p>○脇田川の魅力を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な川。 ・いろいろな植物がありそう。 ・いろいろな生き物がいるそう。 ・川の水は綺麗な。 ・どこに続いているんだろう。 ・川の種類によって生き物は違うかもしれないよ。 <p>○脇田川について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は、流れる水が農業などに利用されていたみたいだよ。 ・ヤマセミやヤマガラなど普段は見ることのできない鳥が見られるんだって。 ・下流に行くと、コイやボラもいるみたいだよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年の総合的な学習の時間で脇田川について調べた内容を振り返り、改めて脇田川の魅力を考えさせる。 ・インターネットで脇田川の生態系について調べる。 	イ②
2 ～ 5	<p>○実際に脇田川へ行ってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマセミやヤマガラなど初めて見る鳥がいたよ。 ・川の水がとても綺麗だった。 ・植物も家や学校の近くにはないものがあったよ。 <p>○自分が発信したい内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水がきれいだったから脇田川の水について発信したいな。 ・鳥や虫などたくさんいたから生き物について発信しようかな。 ・もう一度行って発信する内容について調査したいな。 ・川の速さについて興味があるから速さについて調べたい。 <p>○改めて脇田川へ行ってみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物や植物を写真にとり、記録しておく。 ・水中カメラを使って川の中の様子を記録する。 ・近くの農家の方に、話をうかがう。 	ア①② イ①

<p>6 ～ 12</p>	<p>○調査をして分かったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことがない魚を見ることができた。 ・水が綺麗だったよ。 ・水質は、どうやったら分かるのかな。 ・汚い水のままだと生き物は生きていけないんじゃないかな。 ・速さはどの場所も同じだったよ。 <p>○脇田川の魅力発表会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の学習での知識をもとに、生物がなぜ生きていることができるのか考えさせる。 ・ペアやグループで話し合い、脇田川の魅力について考えを深め、自分が発信したい情報をまとめさせる。 ・学年全体で発表会を行い、互いに種類が異なる脇田川の魅力を知る。 	<p>ア② イ② ウ②</p>
<p>13 ～ 20</p>	<p>○脇田川の魅力を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターを作って学校みんなにも知ってもらおう。 ・学校みんなが知ってくれるような発表をしよう。 ・生き物マップを作ろう。 ・魅力紹介MOVIEを作って、PTA新聞などにQRコードを載せれば、もっとたくさんの人に知ってもらえるかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習をもとに自分たちができないことはないかと考えさせるようにする。 ・どうしたら他の人たちに伝えられるかを考えさせ、発表や資料を工夫させる。 ・学校だけでなく、保護者や地域の方々へも伝えることで脇田川の魅力が未来へつながることを気づかせる。 	<p>ア② イ② ウ②</p>

～成果～

ESDの視点

- ・相互性
活動を進める中で、「きれいな脇田川がこの先も残るといい」「脇田川をきれいなまま残すには、どうすればよいのか」などの考えを児童が持っていることが発表の際の発言から分かった。
- ・公平性
自分さえよければよいのではなく、他の世代や同世代の人たちのことを踏まえて魅力を発信し、魅力を残していくために必要なことを考えることができていた。
- ・責任性
クラスや学年の友達と協力することで自分一人では活動ができないことに気づき、保全活動をすすめるには学校だけでなく地域の方々の協力が必要だと気づくことができていた。

ESDの資質・能力

- ・システムズ・シンキング
脇田川の生態系や水の大切さについて、生態系や水について調べた自分以外の児童と意見交流を深め、自分がどんなアクションをおこしていくのかについて考えていた。
- ・協働的問題解決力
2度の生態調査を踏まえて、同じテーマを持つ児童同士で活動を進め、川の魅力を伝えるためにはどうしたら良いのか考えることができていた。

ESDの価値観

- ・世代間の公正
次の世代に繋げるための活動を考えることを通し、次世代との関係について気づくことができていた。
- ・自然環境・生態系の保全を重視する
綺麗な川を保つには、自分たちがゴミを捨てない、捨てさせない、ゴミを拾うなど保全のための活動を考えることができていた。

～課題～

ESDの視点

- 当初、多くの児童が「川の水はきたない」と予想していた。実際、川へ調査にいくと予想に反していたため、どのようなテーマで活動を進めていくのか、定まるのに時間を要した。川がきれいだった場合も想定した上でのテーマ設定が必要である。
- また、それぞれがテーマを持ち、活動を進め、それぞれが考えた脇田川の魅力を学年で発表したがその先まで活動を広げることができなかった。また、脇田川について調べたことも学年内での共有で終わってしまっているため、学校全体、地域まで発表を広げていきたいと考える。

ESDの資質・能力

- ESDの視点における課題でもあげたが、一連の活動が学年内で終わってしまった点が課題だと考える。次年度以降では、学校全体や近隣の小学校と協力したり、他県の学校と学校の近くの川について調べたことを交流したりすることで、更に多くの人と協働的に活動できると考える。
- また、長期的思考力においてはデータに基づいた上で先のことを考えることが難しかった。川の示標調査を行い、それを基にして考えを深めさせていきたい。

ESDの価値観

- 価値観については、育てたい価値観については養うことができたと考えている。今後は、育てた価値観を更に深めていきたい。川を守る活動の具体的な内容までは調べていなかったため、今の世代に繋げてくれた前の世代がどんな活動をしていたのか具体的な内容を知り、今の世代の自分たちができることを具体的に考えさせていきたい。



現在の学年終了時に目指す姿

自ら掲げた学習目標の達成に向けて、現状の課題を客観的に把握・分析し、解決策を自己決定に基づいて計画・実行することで、粘り強く主体的に学ぶことができる5年生。

総合的な学習の時間「脇田川の魅力を伝えよう」

○主に養いたいESDの資質・能力

システムズ・シンキング

脇田川の生態系や水の大切さについて意見交流を通して自分の考えを持つ

長期的思考力

今の脇田川的环境だけでなく、これからの脇田川的环境について考える力を養う。

協働的問題解決力

クラスの友達と協力し、それぞれの観察結果や考えたことを比較し、意見を交流することで解決していく。

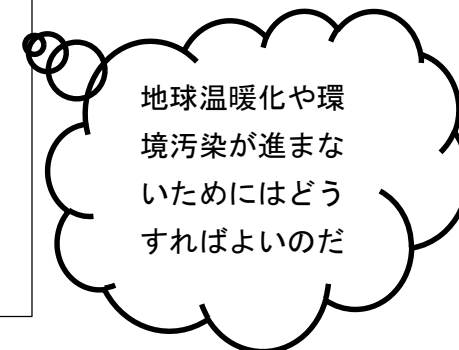
○主に育てたいESDの価値観

世代間の公正

きれいな脇田川を保つためには、自分たちがまず行動を起こしていくことが大切である。

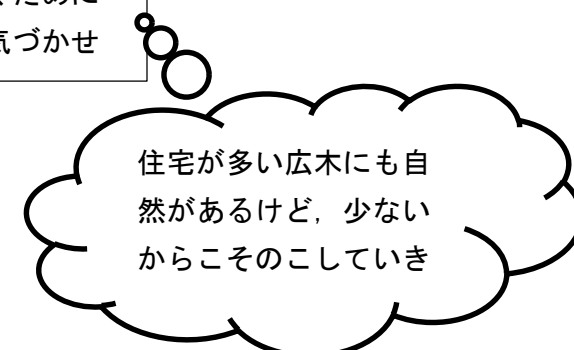
校外学習（環境未来館）

環境問題について、事前に調べたり専門家の方の話を伺ったりすることを通して正しく理解するとともに、現在の環境を保全していくためには一人一人が自分ごととして考えたり行動したりしていく努力が大切であると実感する。



国語科「固有種が教えてくれること」

アマミノクロウサギを例に挙げ、固有種を守っていくためには、現代を生きるわたしたちが環境保全に取り組み続けていかなければならないことが書かれている。今ある広木の自然をこの先も守っていくためには児童一人一人の行動が大切だと気づかせ



住宅が多い広木でも水がきれいなのはなぜなのか、調べる場所をもっと広げてみ

総合的な学習の時間「ひろたん」

学年探求で学習したことの延長として個人探求で川の透明度や川の速さについて更に詳しく調べていく。